

平成 26 年度水産研究成果情報

課題名 : DNA マーカーを用いたガザミ種苗放流効果の検討

[背景・ねらい]

ガザミは有明海の重要魚種の一つであるが、平成 15 年以降資源が低位状態にある。このため、有明沿岸四県では、ガザミ資源の回復に向け、新たに開発された DNA 親子判定技術を用いた放流効果調査に取り組んでおり、漁獲混入結果を基に、ガザミ種苗放流の有効性について検討している。

[成果]

- (1) 平成 26 年には、当センターが C3 サイズ(全甲幅長 10 mm)の種苗 63 万尾を、また、佐賀県有明海漁協が C1 サイズ(全甲幅長 5 mm)の種苗 124 万尾をそれぞれ放流した(表 1)。本年度は 558 検体についてマイクロサテライト DNA 分析を用いて、放流種苗の漁獲物への混入状況を調査した結果、2 個体が本県で放流した種苗であると推定された。
- (2) モニタリング調査の結果、佐賀県海域における平成 26 年の推定漁獲量は 12.5 トンであり、好調であった昨年の 2 割程度であった(図 1)。
- (3) これまでの調査により、標識装着が難しかったガザミ種苗の追跡調査が可能となり、放流した種苗が一定の割合で漁獲混入し、漁獲量の底上げに効果があることが示された。

表 1 佐賀県のガザミのサイズ別放流尾数 (単位 : 万尾)

	C3 サイズ	C1 サイズ
平成 21 年	24	147
平成 22 年	24	155
平成 23 年	80	302
平成 24 年	94	175
平成 25 年	93	105
平成 26 年	63	124

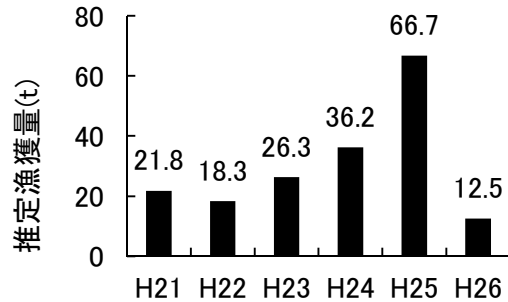


図 1 平成 21~26 年度の佐賀県海域における推定漁獲量

[課題・問題点]

今回、放流種苗が一定の割合で漁獲混入することが確認されたが、ガザミは有明海を広域移動する種であり、放流効果をより正確に把握するためには、今後とも有明海沿岸四県で協調して調査を継続していくことが必要である。

[今後の対応]

有明沿岸四県での共同効果調査の継続 → 適放流条件(放流サイズ、時期、場所等)の整理 → 共同放流へステップアップを図る。

[その他]

研究期間:平成 21 年~

研究担当者:資源研究担当 伊藤毅史